

第129回日本産科麻酔学会学術集会
ランチョンセミナー3 (LS3)

Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.

信 頼 と 合 意

産科麻酔における
術後早期回復のための取り組み

日 時

2025年11月23日 (日)
12:20 ~ 13:20

会 場

第2会場 (会議室204)

奈良県コンベンションセンター
〒630-8013 奈良県奈良市三条大路一丁目691-1

座 長

照井 克生 先生

埼玉医科大学総合医療センター 副院長
産科麻酔科診療部長・教授

帝王切開術後の回復に向けたQOL 向上の取り組み

演 者

鬼塚 一聡 先生

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
先進治療科学専攻 生体機能制御学講座
侵襲制御学 / 麻酔・蘇生学教室

共催：第129回日本産科麻酔学会学術集会／丸石製薬株式会社

帝王切開術後の回復に向けたQOL 向上の取り組み

帝王切開術は世界中で広く行われているが、術後回復の質は依然として大きな課題である。本セミナーでは回復の最終目標を、『経膈分娩に近い自然な産褥経過を再現すること』とし、そのために必要とされる術前から術後までの一貫した周術期管理を概説する。特に近年は、離床や授乳支援心理的サポートを含む包括的介入が重視されている。

術後回復を客観的に評価することは、従来の臨床指標や主観的印象のみに依存しない管理を可能にする。産科領域に特化して開発された Quality of Recovery (ObsQoR) スコアは、身体的側面だけでなく情緒面や母児関係を含めて多面的に評価できる点で有用である。国際的には ObsQoR 11 が基盤として広く用いられ、さらに簡便化された ObsQoR 10 は患者負担が少なく実臨床での利用が拡大しており、日本からも臨床研究が報告されている。

帝王切開術後の周術期管理を最適化する包括的戦略として、Enhanced Recovery After Cesarean (ERAC) が国際的に注目されている。ERAC は術前・術中・術後を通じた包括的介入を体系化し、早期離床、効果的な鎮痛、母乳育児支援などを通じて出産後の回復を促進する。特に麻酔科医が担う術中管理は、術後経過に直結する重要な要素である。

本セミナーでは、帝王切開術後の QOL 向上に向けた最終目標設定と回復評価の意義を整理し、ERAC に基づく具体的戦略を概説する。また、周術期における薬剤選択の工夫にも触れ、日常臨床に応用可能な実践的アプローチを紹介する。

本セミナーが、帝王切開術を受けた母親のより良い回復と安心した育児支援につながるとともに、参加者の皆さまと今後の実践を共有する契機となることを期待する。

鬼塚 一聡 先生